

将棋講座資料

～上達のヒント・初級者編～

Index

1.イントロダクション

2.戦法を知ろう

3.囲いを知ろう

4.格言を知ろう

5.将棋の上達法

6.用語集

7.最後に

□1.イントロダクション

将棋の講座を始める前に、ここに来てる人は将棋の大まかなルールは分かる人という前提で話を進めていきます。将棋における「戦法」、「囲い」、「格言」といった幾つかの項目に分けて、将棋が強くなれるようにちょっとしたヒントを教えていこうと思います。中には知ってることもあると思いますが、少し我慢してご清聴していただければ幸いです。この講座が少しでも、みなさんの棋力向上につながるように頑張っていきますので、よろしくお願いします。

2.戦法を知ろう

将棋の戦法には大別して2つの戦法があります。

飛車を初期配置の筋で使う「居飛車」と飛車を反対側の筋で使う「振り飛車」です。

そして居飛車と振り飛車の組み合わせで戦型には大きく分けて次の3つが生まれます。

居飛車 vs 居飛車の相居飛車、居飛車 vs 振り飛車の対抗形、振り飛車 vs 振り飛車の相振り飛車

ここでは具体的な形と一緒に、各戦型について簡単な解説をしていこうと思います。

どれも有力な作戦ばかりなので、「ちょっとカッコイイな」とか「これ面白そう」とか、少しでも興味を持った戦型があれば積極的に指してみてください。

相矢倉

定跡がかなり整備されているせいか、アマチュアには敬遠されがちだが、将棋の「手筋」が頻出する戦型なので基本の勉強にはもってこい。がつつり金銀3枚で囲い合う持久戦から早い段階で動き始める急戦型まで、展開の幅の広さも特徴である。



相掛かり

お互いに飛車先の一步を手持ちにしてから戦う戦型。形としては古くから指されているものの、定跡はほとんど整備されていないので個性の出やすい戦型である。自分が指したくても指せない場合が多いことが悩みの種だが、指せるとメリットも多い。



横歩取り

先手が歩得を主張する強気な戦法。比較的持久戦にはなりにくく、激しい戦いや乱戦、急戦の将棋を指してみたい人にはオススメする。後手番での対策もここ数年で目まぐるしい進歩を遂げており、これまた個性が出やすい戦型であることは間違いない。



角換わり

角交換してから駒組みを進める戦型で比較的持久戦になりやすい。先手の銀の使い方で「棒銀」「早繰り銀」「腰掛け銀」という形があるので、まずは主要な定跡を学ぶところから始めるといいだろう。アマチュア棋士からプロ棋士まで人気がある戦型。



後手一手損角換わり

角換わりを勉強すれば、この戦型の存在意義が分かるようになる。最近は相居飛車だけでなく、後手から向かい飛車や四間に振る形もみられるようになり、後手の作戦も多様化してきた。後手が手損していても、先手が簡単によくないのは将棋の面白いところ。



四間飛車

飛車を4筋に動かすから「四間飛車」。飛車の振る筋によって向かい飛車（2筋）、三間飛車（3筋）、中飛車（5筋）と呼称が変わるが、いずれも玉を右辺に深く囲って大駒をさばくことが狙いとなる。駒組みが分かりやすいので、少し勉強すれば一人前に指すことができる戦型。



早石田

右の形から飛車を3筋に振って、「石田流」という攻撃形を築くことを狙いとする戦型。非常に積極的な戦型で、後手の対応によっては持久戦から乱戦まで展開が大きく変わってくるのも特徴。振り飛車でも積極的に攻めたい人にはオススメしたい。



先手中飛車

角筋を通したまま飛車を5筋に振る戦型。左の桂馬、銀などを総動員して中央突破を図る戦法で、決まった時の破壊力は絶大である。居飛車の持久戦や急戦策にも対応でき、中飛車ひとつでかなりの柔軟性があるため、初級者から有段者まで幅広く使いやすい戦法でもある。

▲先手なし

香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香
歩	角		飛	歩	歩	歩	歩	歩
歩		歩		歩				
歩								
歩								
歩								
歩								
飛								
桂								
香								

1 2 3 4 5 6 7 8 9

△後手なし

ゴキゲン中飛車

先手中飛車の局面と同じになるが、手番は相手。後手番だが飛車先を受けながら中央の位を取って、さばきを狙ってしまうという積極的な戦法。かなり定跡が整備されている戦法でもあるので、主要な変化を抑えるところから学ぶといいだろう。

▲後手なし

香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香
歩	角		飛		歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩
歩		歩		歩				
歩	歩							
歩								
歩								
桂	飛					馬		香
銀		金	王	金	銀	桂	香	

九八七六五四三二一

▲後手なし

角交換振り飛車

振り飛車から角交換を狙うという一風変わった戦法だが、ここ数年のトレンドである。手損を気にしない指し方や、逆棒銀の筋など、独特のセンスが求められるため初級者にはやや勧めにくい、先手番でも後手番でも使えるのでこれ一本の振り飛車党も面白いかもしれない。

▲先手なし

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

1 2 3 4 5 6 7 8 9

▲先手なし

相振り飛車

右の図は一例である。互いに早石田、向かい飛車で対抗、中飛車左穴熊、角交換振り飛車で駒組みなど、飛車を振る筋と駒組みによってかなり多様化する戦法。振り飛車党同士がぶつかると頻出するので、振り飛車党としてはしっかり指しこなしたいところである。

▲先手なし

香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香
歩	角		飛		歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩								
歩								
歩								
歩								
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

1 2 3 4 5 6 7 8 9

▲先手なし

□3.囲いを知ろう

戦法に合った囲いを選んで玉を囲うことで、相手の攻めを遠ざけて自分が思いっきり攻撃できるようになり、勝率がぐんとUPします。必ず玉を囲えばいいというわけではないですが、有段者になるまではしっかり玉を囲ってから戦うことをお勧めしたいです。“玉の囲いは金銀3枚”というセオリーがあり、ここに紹介する囲い以外にもたくさんの囲いもありますし、自分流に玉を囲うのも一興ですが、最初の内は綺麗に囲っておいたほうが負けることは少なくなるでしょう。

矢倉	堅さ	★★★																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	厚さ	★★★★																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	バランス	★★																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	囲い易さ	★★★																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	発展性	★★★																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
特徴	居飛車の王道、矢倉囲い。上部からの攻めに強い ため相居飛車の将棋で用いられる。横からの攻めには弱 いので注意が必要になる。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	<div><div>▲先手なし</div><div>9 8 7 6 5 4 3 2 1</div><div>一二三四五六七八九</div><div>主勢▽</div><table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></</td></tr></table></div>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
</																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

雁木	堅さ	★★
	厚さ	★★★★★
	バランス	★★★★★
	囲い易さ	★★
	発展性	★★

特徴	矢倉と同じく相居飛車の将棋で用いられる。ここから一気に急戦で攻め立てたり、玉を深く囲ったり、広くバランスよく構えたりと柔軟性のある囲い。ただし飛車の攻めに弱い。
----	--

主勢▽	9	8	7	6	5	4	3	2	1	▲先手なし 一 二 三 四 五 六 七 八 九
								</		

舟囲い	堅さ	★★
	厚さ	★
	バランス	★★★★★
	囲い易さ	★★★★★
	発展性	★★★★★
特徴	振り飛車に対して居飛車が用いる囲い。ここから急戦か持久戦か自分の好みに合わせて駒組みを進めることができる。とりあえず対抗形になったらここまで組んだほうがいい。	

主勢▽	9	8	7	6	5	4	3	2	1	▲先手なし 一 二 三 四 五 六 七 八 九
	歩		歩		歩					
		歩		歩		歩				
		角	玉		金	銀				
	香	桂	銀	金						

天守閣美濃		堅さ	★★★★★
		厚さ	★
		バランス	★★★
		囲い易さ	★★★
		発展性	★★
特徴	舟囲いからの派生形。横からの攻め合いには強いが、玉が上のほうにいるために玉頭から攻められると崩されやすい。右の銀は攻めに使ったり7七まで引きついたりする。		

穴熊		堅さ	★★★★★
		厚さ	★★★
		バランス	★
		囲い易さ	★
		発展性	★
特徴	最強の囲い。玉が遠いために王手や詰めるがかりにくい。しかし、攻めに失敗して姿焼きになったり、バランスの悪さを突かれたりするので、上級者向けの囲いである。		

中住まい		堅さ	★
		厚さ	★★
		バランス	★★★★★
		囲い易さ	★★★★★
		発展性	★★
特徴	相掛かりや横歩取りでみられる囲い。バランスがよいので大駒を交換し合う展開などで力を発揮する。展開次第では玉頭を厚くしていくことができるが、堅さを求めるのは難しい。		

中原囲い		堅さ	★★
		厚さ	★★
		バランス	★★★★★
		囲い易さ	★★★★★
		発展性	★
特徴	中住まいに対して堅さを求めた囲いだが、その分自陣に隙が生じている。発展性に乏しいが、攻め合いになれば玉の堅さが活きやすいので、積極的に動いていくことになる。		

美濃囲い		堅さ	★★★★
		厚さ	★★
		バランス	★★★★
		囲い易さ	★★★★★
		発展性	★★★
特徴	振り飛車の王道、美濃囲い。いくつかの弱点はあるものの、玉が堅く発展性もあるため、振り飛車を指すときには美濃囲いに組んでおけば悪くなることはほとんどない。使いやすくて強い囲いである。		

高美濃		堅さ	★★★★
		厚さ	★★★★★
		バランス	★★
		囲い易さ	★★★★
		発展性	★★
特徴	美濃囲いに厚みを加えた囲い。横からの攻めには少し弱くなるが、玉のコビンをケアしていて上部に強い。高美濃にするか美濃囲いのままかは展開で使い分ける。		

銀冠		堅さ	★★★★★
		厚さ	★★★★★
		バランス	★★
		囲い易さ	★
		発展性	★
特徴	美濃系の最終形態。玉頭が厚く、二枚飛車でもない限り寄せられにくい囲いである。しかし、玉を囲う瞬間に攻められやすく、隙なく組むにはそれなりの技量が必要になる。		

金無双		堅さ	★★
		厚さ	★★
		バランス	★★★★★
		囲い易さ	★★★★★
		発展性	★★
特徴	相振り飛車で用いられる囲い。陣形が低く、浮き飛車との相性が良い。玉のコビンが弱いので囲いとしての強度は低いが、すばやく囲って急戦で戦う展開にするのが望ましい。		

□4.格言を知ろう

将棋には格言というものがあります。必ずその格言が正しいというわけではありませんが、将棋のセオリーや指し方の方針を決める上で、参考になることが多いです。ここでは幾つか有名な格言を簡単な解説とともに紹介していこうと思います。

・歩のない将棋は負け将棋

持ち歩が一枚もないと手が作りにくいことから、歩がないと戦いようがないという格言。歩は合駒やたたきの歩、継ぎ歩、垂れ歩、底歩などの手筋にも使えるので、歩の使い方をマスターすればすぐに上達する。似たような格言に「一歩千金」などもある。

・と金は金と同じで金以上

と金は金と同じ動きができる上に、取られたときには歩に戻るので、寄せにと金が働くと展開になれば勝ちやすい。「5三のと金に負けなし」、「と金の遅早」などと金の格言も多い。

・玉は下段に落とせ

似たような意味の格言で「中段玉は寄せにくし」というものもある。下段の玉を上から抑えると詰めろもかけやすく、玉を寄せやすいという格言。

・玉は包むように寄せよ

「王手は追う手」と対になり、相手の玉を王手で追い回すのではなく、退路を封鎖したり挟撃体制を築くことで格段に玉を寄せやすくなる。初級者は玉を追い回しがちなので、王手の前に一呼吸おいてみるのが重要。

・居玉は避けよ

一手も動いていない玉を「居玉」といい、居玉のままだと守りも薄い上に、駒の当たりも強く技をかけられやすいので、しっかりと囲うのがセオリーだという格言。

・金なし将棋に受け手なし

金は守りの駒としてよく働き、金がないとすぐに必至をかけられたり、受け手がなくなるため金のない状態で寄せられると危ないという格言。

・金は斜めに誘え

金は斜めに上がると戻れないため、金を斜めに動かすことができれば、金の働きを一気に弱めることができるという格言。

・銀は千鳥に使い

銀はまっすぐ引けないために、直進してしまうともとの場所に戻りにくい。銀は斜めに使うのがセオリーだという格言。

・桂馬の高跳び歩の餌食

桂馬は足がはやく、攻め駒としても優秀だが、正面の駒が取れないため歩ですぐに殺されることがしばしば。攻めるときには桂馬を跳ねるタイミングが重要になる。

・下段の香に力あり

香は正面に進める駒なので、できるだけ下段から打ったほうが香のはたらきが良いということ。香を使うときはなるべく下段で。

・馬は自陣に引け

馬の守りは金銀三枚という格言もあり、馬は守備駒としては非常に優秀ということ。馬を作ったときは自陣に引き付ける手を含みに指すといいだろう。

・大駒は離して打て

飛車や角はなるべく相手の駒から遠い位置で打つのがよいという格言。「大駒は近づけて受けよ」という格言もあるぐらい大駒の威力は絶大である。

・攻めの理想は飛車角銀桂・玉の守りは金銀三枚

対になっている格言で、将棋の駒の役割配分を示したもの。最初の内は金銀三枚で囲って、飛車角銀桂で攻めるのを目指すのがいいだろう。飛車と桂だけでは攻めが細い。

・銀が泣いている

銀は攻めの要だが、攻めるときにうまくさばけないと取り残されてしまい、遊び駒となってしまうということ。はたらく見通しも立たず遊んでいる銀の状態を「泣いている」と表現している。

・序盤は飛車より角

序盤では角を持って馬を作りに行く狙いが受けにくいいため、同じ大駒でも角のほうが価値が高いという格言。これに従っている定跡も多い。

・長い詰みより短い必至

初級者の内は、長手数の詰みや複雑な詰みを読むのは難しいので、相手の玉を無理に詰ますよりは短い手数で必至や詰めるをかけるほうがよいということ。

・開戦は歩の突き捨てから

攻める準備を整えていよいよ攻めるぞ！ってときには歩を突き捨てておくべきだという格言。戦いが起きてからだと歩を突き捨てても無視されることや間に合わないことが多いので、とくに飛車先の歩は突き捨てておくことが多い。

・離れ駒に手あり

どの駒からもひもが付けられていない駒を離れ駒といい、これを狙うことで手が作りやすくなる。逆に、駒組みを進めるときには離れ駒を作らないようにするのがよい。

・玉飛接近すべからず

玉と飛車が接近した形は悪いということ。王手飛車もかかりやすいし、飛車を目標にされても玉を目標にされても被害が増えてしまう。

・玉の早逃げ八手の得あり

退路を封鎖されたり、玉が囲いの外側にいると受けが難しいため、玉を安全なほうへあらかじめ逃がしておけるということ。八手の得があるかは分からないが、実際早逃げしたほうが良い場面は多い。

・二枚替えなら歩ともせよ

基本的に飛車と金桂の交換などは二枚替えで得だといわれるので、二枚替えなら歩を含んでいてもしたほうが良いという比喩表現。

・四枚の攻めは切れない

相手の玉を寄せるのに三枚以下の駒の攻めでは切られる心配があるということ。攻めが足りないと思ったら攻め駒を補充したり、遊んでいる駒を攻め駒に活用しよう。

・終盤は駒の損得より速度

終盤の寄せ合いでは一手の違いが大きいという格言。自玉の安全度は気にしないといけませんが、寄せにいくときに大駒を可愛がってはいけません。

※ここからはアマチュアならではの格言になるので、参考にするときは注意してください！

・駒得は正義！

類語に「駒得は裏切らない」がある。駒得して悪いわけがないとばかりに駒得を目指していると負けてしまうので注意。

・とりあえず飛車を下ろせ

飛車は相手の玉を寄せるのに最も強力な駒なので、とりあえず飛車を持ったら相手陣地に打っておいて寄せるチャンスを狙おうとする三流の考え方。(私です)

・困ったら端攻め

相手玉が堅い、遠い、手が付けられないと思ったら端攻めしてみよう。何かが開けるかもしれない。ただし端を突いていなければ希望も何もない。

・堅めてチャンスを待つ

攻めても勝てないときには自玉を堅めておいて、相手が攻めを失敗するのを待つ。相手が失敗しなかったら勝てないので、あくまで最終手段である。

□5.将棋の上達法

「将棋が強くなるにはどうすればいいのか」

初心者や初級者の人が必ず悩む問題ですが、個人で勉強して強くなる方法としては、最初はルールの乗っている初心者向けの本を読んでみる。そしてルールを覚えたら初級者向けの戦術本を読んでみることでしょ。ひと通り覚えたらネット将棋やアプリなどのコンピュータを相手に練習を積んでいけば上達します。

しかし、将棋部や町の将棋教室へ通えば、自分より格上の人たちから直接将棋の指導をしてもらえるし、対局相手にも全く困りません。そして将棋が強くなるのに一番大事なのが「感想戦」です！感想戦というのは対局後にその対局の中でポイントになる局面についてお互いで検討するというものです。自分以外の人と検討することで、相手が何を考えていたのか、どの手が悪い手だったのか、またそのときどう指せば良かったのかを教えてください。初級者の内は自分より格上の人に「自分が気になった局面」についてガンガン質問していきましょう！相手の人も「この局面でこう指せば良かった」ってのを丁寧に指導してくれるはずですよ。

将棋部にはひと通りの将棋本も揃っていますので、部室から借りて家でも勉強できるうえ、ネット将棋をしている部員に声をかければ休日や部活のない日でも対局してもらえます。自分より強い人と実戦を重ねることで必ず強くなれますので、最初の内は負け続けて辛いかも知れませんが、そこを根気で乗り越えれば初段への道も遠くありません！

ここに幾つかのネット将棋サイトを紹介しておきます。自分で勉強しながらも誰かと対局したいという人は利用してみてください。

・ **将棋倶楽部 24** : <http://www.shogidojo.com>

ネット将棋サイトでは最も大規模で部員もほとんどが利用しているほど。やや厳しめのレーティング評価なので最初の内は勝てないかもしれないが、めげずに頑張ってください。

・ **81Dojo** : <http://81dojo.com>

こちらもかなり規模が大きくなってきたネット将棋サイト。海外の人の利用も多く、自分の棋風や成績を分析してくれるので、初級者向けともいえるかもしれない。

・ **将棋ウォーズ** : <http://shogiwars.heroz.jp>

PC サイトよりはアプリのほうがメジャーになっている。エフェクトやアバターの設定など将棋以外の要素が充実しているものの、対局時間の設定が少なめなので棋力向上にはつながりにくい。初級者の内は実戦を詰むのに便利である。

□6.用語集

- 寄せ : 相手の玉を詰ましに行くこと。寄せが見え始めると終盤戦といえる。
- 詰めろ : あと一手で相手の玉を詰ますことのできるようにすること。
- 必至 : 次に相手が何を指しても相手玉が詰む状態のこと。
- 一手スキ : 次に詰めろをかけられる状態のこと。
- ゼット : 「絶対に詰めろのかからない玉の状態」のこと。穴熊などが典型的な例
- 玉のコビン : 玉の斜め上のマス目のこと。ここを攻めると寄せ易い。
- さばく : 駒を“さばく”という表現の説明は難しいが、駒を有効に使うものと考えておけばよい。
- 遊び駒 : 盤上で働いていない駒のこと。基本的に遊び駒は作らないほうがいい。
- 棋力 : 将棋の実力のこと。

□7.最後に

今回の将棋講座を受講してみてどうでしたか？今回の講座の内容を聞いて「知っていたことばかりだった」ってあなたは十分な実力者なので、初級者なんて言わずに胸を張ってください！

今回講座で教えたような知識は本を読んだり、将棋教室へ行かないとなかなか教えてもらえないので、将棋を勉強したことがあっても知らなかったりします。将棋部は初心者から有段者まで幅広い棋力の人が楽しく将棋を指していますので、自分の実力とか気にせずに一度見学に来てみるといいでしょう。

みなさんが将棋を好きになって、これからも少しでも将棋を続けてもらえれば幸いです。今回はありがとうございました。

ちなみにブログを書いております。

主にタイトル戦などの観戦記をまとめてありますので、興味のある人は是非一度アクセスしてみてください。

「棋になる話を棋の向くままに」

URL:<http://26842585783224dd2328.blog.jp>

